

令和6年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府民の森北・中河内地区	指定管理者：住友林業緑化株式会社	指定期間：令和4年4月1日～令和14年3月31日	所管課：環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
--------------------	------------------	--------------------------	-------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の 自己評価	評価 S～C	施設所管課の 評価	評価 S～C	評価委員会の 指摘・提言	
I 提案の 履行状況 に関する 項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	<p>施設の設置目的に沿った管理運営ができたか。</p> <p>①安心・安全で快適な利用の確保 ②自然に親しむ行事等を通じた自然教育の実践 ③良好な森林景観、生物の多様性の確保に向けた植生の保育管理 ④府民との協働を推進</p>	<p>電力等の光熱費や資材、人件費等々の価格高騰などの物価高騰(変動)に対して、継続的に個々の管理運営業務(植栽管理の面積縮小や実施回数削減の縮小、作業の一本化など)を根本から見直すことで効率化、最適化を行いコストダウンに努めている。しかしながら、予想以上のコスト上昇並びに長期化で現地での対応にも限界があることから、府との協議等で引き続き相談したいと考えている。今年度においても上記理由により、運営経費を大きく圧迫し、今まで通りの管理運営水準等の維持も厳しい状況にある。</p> <p>①全管理園地を対象に作成した管理カルテ台帳をもとに、大阪府と適宜共有し、危険度の高いものから優先して改修等を実施した。 ②各施設にてワークショップ等を多数開催した。 ③管理カルテ台帳と合わせて、日常の巡視により、危険木、景観改修を実施した。 今年度から、くろんど園地内において、大阪府のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のキンランの保護活動の取組みを開始した。 ④NPO 法人日本パークレンジャー協会やなわて山守隊と共に園地の森林整備を実施した。むろいけ園地においてはNPO 法人ディーセントファームと協業し、園内管理で排出される竹のリサイクルとして竹炭作りを開始。実際の工程を学べる環境学習教室の取組を開始した。 また、くろんど園地においては、天理教災害救助ひのきしん隊による、園内整備を実施し、継続的な協働関係を作ることができ、森の循環や整備に取り組むことができた。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画どおり施設の設置目的に沿った管理運営が実施されており、評価できる。</p> <p>③新たにキンランの保護活動に取り組むなど植生の保育管理に積極的に取り組んでいる。今後、自然教育などへの活用に努められたい。</p>	A	
	(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	<p>平等利用に努めたか。</p> <p>①誰もが安心して利用できる公園運営に係る多様な媒体を活用した情報発信(音声ガイドシステムの充実)、オンライン予約の導入 ②利用者の意見を反映した公園運営 ③持続可能性を重視した公園運営 ④職員の研修、ボランティアスタッフの育成 ⑤歩行サポート事業(ウォーキングポール、電動カート、グリーンローモビリティ等) ⑥高齢者や障がい者施設等への情報提供</p>	<p>①ホームページにおいて園地毎の情報を積極的に配信した。また、公式LINE、各SNSを通しての情報配信も積極的に実施し、ほしだ園地ではSNSを活用したフォトコンテストを実施した。イベント等の予約についてはネット受付を活用した。音声ガイドシステムについては、これまでのコンテンツの見直しや新たなコンテンツの検討を行ったが、園地内の電波の確保が最大の課題となり、まずは来園者の多いほしだ園地のWi-Fi環境の充実を図った。翌年度以降、システムの活用を検討している。</p> <p>②紙によるアンケートに加えて、LINEによるアンケートを通年で実施し、利用者の要望等を随時把握した。なるかわ園地の駐車場24時間開放など運営に反映している。</p> <p>③危険木等の伐採木については各園地にて薪にして府民の森の利用者に販売、園地内の土留めやフォトスタンドとして再利用した。</p> <p>④園地管理運営に必要なまたは役立つ資格取得を積極推進し、住友林業緑化における安全管理部門による安全講習会へ参加した。 ⇒公園管理運営士1名</p> <p>⑤なるかわ園地にて、電動シニアカート(1人乗り)、電動キックボード(1人乗り)の運用(有料)を継続的に実施し、1年間で約100人が利用した。</p> <p>⑥車いすを貸出し、障がい者施設利用者へは電話での対応並びに来訪時の対応を行った。また、高齢者へは転倒防止や装備品に関する注意喚起情報を継続して提供した。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>①音声ガイドシステム「SARF」については、Wi-Fi環境の整備等課題があるものの、今後もコンテンツの拡大、サービスの向上に期待する。</p>	A	<p>音声ガイドシステム「SARF」について、電波の届く場所への導入、活用方法(危険回避情報、多言語対応等)の拡大に努められたい。</p>

	(3)安全・安心に利用できる府民の森とするための管理の具体的方策	<p>施設の安全管理について、トラブルの未然防止や、発生した際の処理方針、今後の管理への反映がなされたか。</p> <p>①予防保全による危機事象未然防止対策の実施  ②事件・事故等危機事象の備え  ③緊急時の即応体制対策  ④災害時の適切な対応と迅速な応急処置</p>	<p>①現地職員による毎日の巡回により危険箇所、危険事象を確認した場合は、全園地へ共有するとともに、大阪府・中部事務所と協議のうえで適切に対応するとともに、施設掲示、HP、各SNS等にて利用者への周知を徹底した。また、上記にて得た情報は随時管理カルテ台帳へ反映し常にアップデートしている。</p> <p>②緊急時連絡網を整備し定期的な運用の確認を実施した。また、各園地責任者内でのLINEによる緊急事象への連絡、対応体制を構築して運営に当たっている。</p> <p>③大阪府、中部事務所、管理者によるLINEを活用した緊急連絡体制を構築し運用している。また、自然災害における現地対応マニュアルを整備し大阪府と共有、継続して改善検討を行っている。</p> <p>④事件・事故・災害発生時はLINEによる速報とあわせて、必要に応じて現地職員が関係機関と連携して初期対応に当たっている。具体的な内容等を確認後に所定書式にて大阪府・中部事務所へ報告書を提出した。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	
I 提案 の 履 行 状 況 に 関 す る 項 目	(4)施設の維持管理の内容、的確性・効果	<p>施設の維持管理、景観保全について、良好な管理がなされたか。</p> <p>①予防保全（構造物のカルテによる点検、巡視、補修）の実施  ②精密点検（遊具、電気設備、防火設備、給水設備、排水設備）と修繕の実施  ③植生管理（除草、除伐、危険木伐採、清掃等）の実施  ④景観保全  ・保全ゾーン：希少な動植物・昆虫の保全  ・整備ゾーン：自然に親しむ環境の創出（カルテ管理）  ⑤美化清掃活動等の実施</p>	<p>①全管理園地を対象にした管理カルテ台帳を作成し大阪府と適宜共有、危険度別に評価し危険度の高いものから改修等を実施した。</p> <p>②遊具については点検表を作成し、点検表に基づく定期巡回を1回/月実施、その他各設備等については業務委託による定期点検、法定点検を実施した。</p> <p>③年間管理計画を作成し、管理計画に基づき植生管理を実施した。</p> <p>④保全ゾーンとして、くろんど園地のキンランを交野自然の杜と協業して現状の把握、種の採取など実施した。まずは第一段階の活動ではあるが、保全を優先しながら、活動の過程を記録し、一定の成果が出た段階で、環境教育の素材として活用したい。整備ゾーンとして、管理カルテ台帳、日々の園地内巡視により計画的な整備（下草刈り、枝払い、危険木等の伐採等）を行っている。</p> <p>⑤日々の巡視活動にあわせて、各園地における設備、施設等の清掃を実施した。また、ごみ箱等は設置せず利用者によるゴミの持ち帰りの協力をお願いしている。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>③樹木伐採や剪定については、年間計画に基づきできている。植生管理に加えて、眺望や景観保全にも配慮して実施されたい。</p>	A	
	(5)サービスの向上を図るための具体的手法・効果（隣接する公園等との連携を含む）	<p>利用者の利便性の向上がなされたか。</p> <p>①新規来園者、リピーター増加への取組み  ・音声ガイドシステムを活用した多彩なコンテンツによる利用促進  ②SDGsを意識した取組み  ③周辺施設（隣接する府営公園等）との連携、各協議会への参画によるサービスの向上  ④多様な媒体を活用した情報発信</p>	<p>①ほしだ園地においては、7月から星のブランコ周辺のWi-Fi環境の運用を開始し、利便性の向上を図った。また、更なる賑わい創出のため、10月からは、星のブランコイルミネーションを開催した。また、クライミングフェスティバルにおいては、観覧者も楽しめるDJブースを新設し、参加者約100名と多くのお客様に楽しんでいただけた。くろんど園地では、キャンプ場を改修し利用者の拡大に努めている。</p> <p>②各園地における危険木や密集している樹木帯を間伐することで樹木等の環境を整備し自然公園としての魅力向上に努めている。また、むろいけ園地においてはNPO法人ディーセントファームと協業し、園内管理で排出される竹のリサイクルとして竹炭作りを開始した。親子環境学習教室として、これまでに8月と11月の2回開催を予定していたが天候不良等でいずれも中止となった。</p> <p>③枚岡公園や星の里いわふね等の周辺施設とイベント情報の共有や映像による情報発信を実施した他、枚岡公園主催のデジタルスタンプラリーへの協力や、地域のお店とのナイトガレッジマーケットなどを実施した。</p> <p>④HP・SNS(Twitter、facebook、Instagram)、イベント案内(こくちーず)、LINE、ポスター、チラシ、大型ディスプレイでの情報発信だけでなく、雑誌・TVなどの取材を積極的に受け、発信に取組んだ。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	

I 提案の 履行状況 に関する 項目	(6) 自然体験活動の推進に関する具体的方策	自然体験活動について、具体的な企画が実施されたか。 ①既存団体との連携強化 ・NPO 法人日本パークレンジャー協会等との連携による自然体験活動の実施 ②新たな体験イベントの推進 ・新たな団体と連携したボランティアリーダーの養成や講師派遣による自然体験事業（キャンプ、ツリークライミング）の実施	①日本パークレンジャー協会と年間を通して自然体験型のイベントを多数共催している。 ②くろんど園地のアウトドア体験プログラムの実施に向けて、キャンプインストラクターの養成を予定している。むろいけ園地においては、ツリークライミング体験を昨年から継続して実施した。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A		
	(7) 施設のにぎわいを創造する事項	収益事業（自主事業）が提案通り実施されたか。 ①自主事業の実施 ・トレッキンググッズ、ハーブ・野菜食材等の販売 ・マルシェ、キッチンカー等のイベント開催 ・養蜂事業によるはちみつの販売、周辺地域の店舗等と連携した商品開発（スイーツ、地ビール等）  にぎわい創造や、確実な施設や設備への投資がなされたか。 ②にぎわいづくり等に向けた投資 ・音声ガイドシステムのコンテンツ作成・更新（多言語ガイド、視覚障がい者向け音声ガイド、聴覚障がい者向け振動ガイド） ・Wi-Fi 環境整備 ・電動車の運用事業、運用のための管理道補修 ・園地ごとに保全計画を策定し管理を実施（各園地の植生、生き物調査等） ・休止中のキャンプ場の再整備（くろんど園地） ・眺望伐採によるスポットの整備（なるかわ園地、ほしだ園地） ・星のブランコのライトアップイベントの開催	①引き続き、オリジナルロゴ入りのキャンプ道具やお土産品、はちみつ製品や関連菓子を販売し、週末や繁忙期はキッチンカーを誘致した。なるかわ園地では9月に夜の魅力づくりイベントとして、地元飲食店等の出店や音楽ライブ等を楽しめるナイトガレージマーケットを開催し、1,680名の来場があった。 交野市の洋菓子店と連携し、オリジナルクッキーの開発・販売を実施した。また、ピザ屋と連携しピクニックセットを販売いただき、ほしだ園地のPRに繋がった。 ②ほしだ園地の星のブランコ周辺でのWi-Fi環境を整備し7月から運用を開始した。これにより、音声ガイドシステムシステムの活用1つの障壁となっている通信環境が一部整った。翌年度以降、コンテンツの見直しと活用を引き続き検討していく。 なるかわ園地における電動カート及び電動キックボードの運用も継続的に実施しており、運用で課題も見え、今後検討しているほしだ園地におけるモビリティの計画においても、ハード・ソフト両面の環境整備を府と相談しながら検討していく。 NPO 法人日本パークレンジャー協会の協力で生物調査を実施し、トラップを仕掛け毎月調査を行い府と情報を共有した。今後教育コンテンツとして活用方法も検討している。 くろんど園地のキャンプ場を再整備し、10月から日帰りでのみ運用を開始した。宿泊利用でのニーズが高く問い合わせもあるため、今後宿泊利用について検討している。 眺望伐採について、なるかわ園地では主に各展望台の4箇所の樹木伐採・剪定に加え、セルフカメラスタンド、看板を設置。ほしだ園地も同様に、星のブランコが眺望できるスポットを中心に6箇所整備した。 星のブランコイルミネーションは、10/11（金）にプレイイベントとして交野市民や関係者を無料招待し、520名が来場した。以後、毎週土日祝（～3/16）に開催して、キッチンカーの出店、ランタンや光るブレスレットを販売し、賑わいづくりに取り組んだ。12月末現在で約3,000名が来場した。	①地元事業者と連携して開催したナイトガレージマーケットは、多数の来園者でにぎわい、園地の新たな可能性を見出した事業として評価できる。 また、実績を生かして令和7年3月に2回目の開催を計画するなど前向きに取り組まれている。  ②樹木伐採・剪定による眺望スポットの整備について、事業計画どおりできている。更なるにぎわい創造に向けて、新たなスポットの整備、維持管理、情報発信に努められたい。  ③星のブランコイルミネーションは、設備投資や広報を事業計画以上に実施した。また、開催期間の延長、クリスマス時期の平日開催など、施設のにぎわい創造に非常に貢献している。 次年度以降も継続的な開催を検討されたい。	A	履行確認の結果、事業計画を上回る取組みや多数の事業を実施したことが認められ、評価できる。	S	
	(8) 府施策との整合	①行政の福祉化、就職困難者の雇用・就労  ②府事業、その他公益事業への協力	行政の福祉化に関する取組がなされたか。 ①就職困難者の雇用・就労状況  府・公益事業への協力がなされたか。 ①府事業への協力状況 ②公益事業への協力状況	大阪府内の支援施設、事業所と連携して雇用実現に向けて調整し、6月に1名を雇用した。  ①生駒山系花屏風景観クリーンハイキングに協力した。 大阪府と包括連携協定を締結しているアース製薬による虫ケアステーションを継続設置した。 ②交野おりひめの里特産市に広報出店に協力した。	A  A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。  履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A  A	

II さらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	アンケート結果を把握し、運営に反映していたか。 ①利用者の満足度調査・アンケート等の回収後の対応策の分析、対応状況	紙によるアンケートに加えて、LINE によるアンケートを継続して通年で実施し、昨年度評価委員会で指摘のあった回答方法について、複数回答できるよう改善した。利用者の要望等を随時把握し園地の管理・整備に反映している。特に利用者から声の多い駐車場 24 時間開放について、なるかわ園地では実証実験を重ね 9 月 1 日から開放を実現した。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	アンケート結果を活用し、サービスの改善・拡大に努められたい。
	(2)その他創意工夫等	その他のサービス向上につながる創意工夫がなされたか。 ① I - (5) 以外のサービス向上につながる取組み、創意工夫の実施状況 ②協働事業（新規の団体等との協働） ③参加・参画機会の確保 ④状況に応じた柔軟な開園時間の延長（開園時間は年間を通じて午前 9 時から午後 5 時が基本）	①昨年度のなるかわ園地に引き続き、ほしだ園地の空調設備を改修し利用者に快適な空間を提供した。年間を通してキッチンカーを多く出店し賑わいを創出した。 ②③東大阪市内で地域活性に取り組まれている事業者(RAYS GARAG)と連携し、なるかわ園地で「ナイトガレージマーケット」を開催した。 ④なるかわ園地の駐車場を 24 時間開放した。また、ほしだ園地の駐車場の出庫時間をイルミネーションイベントにあわせて延長した。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	①当初見込んでいた収入は得られていたか。 ②事業計画や前年度実績等と当年度実績とを比較、分析した結果はどうか。 ③自主事業の事例を調査し、取組可能な事例について導入を試みていたか。 ④経費は当初見込んだ範囲内で収まっていたか。 ⑤当初提案時の支出計画書や事業計画等と実績とを比較、分析した結果はどうか。	①お土産等の物販は物価高が影響し減収、施設利用収入は計画通り、駐車場収入は増収である。 物販等収入 5,252 千円（前期比 90%） 駐車場収入 8,895 千円（前期比 110%） ※11 月末実績 ②園地管理、施設整備については計画通りの実施を予定している。利用者実績は微増、総収入は増収である。 入園者数 735,697 人（前期比 100%） 総収入 19,986 千円（前期比 127%） ※11 月末実績 ③SARF は昨年より継続してコンテンツを配信している。新規モビリティについては、なるかわ園地にて電動シニアカー、電動キックボードの運用を継続実施、養蜂事業については、ほしだ園地・なるかわ園地にて採蜜を継続している。ほしだのはちみつは交野ブランド「カタノのチカラ」としても登録を予定している。 ④光熱費の高騰、人件費の高騰により当初計画よりも増額の予定、他の経費を圧縮することで総額として計画内に収める努力を継続している。 ⑤収支においては、各園地における管理作業における費用が当初予定よりも増額を予定している。収入においては前期より増額が見込めるものの、施設再整備投資の計画金額より資材高騰等で減収を見込んでいる。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。  光熱費や消耗品費等の高騰による影響があるため、経費の削減に努め、引き続き施設管理や自主事業などに取り組まれない。	A	
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①職員体制・配置は十分か。 ②職員採用、確保の方策は適切か（継続雇用等の観点）。 ③職員の指導育成、研修体制は十分か。	①統括所長のもと、各園地に所長を配置し現地運営に対応している。 ②現地運営に必要な人員を、年間を通して適切に雇用している。 ③定期的に大阪府・中部事務所との定例会、1 回/月の園地責任者での定例会の実施により安全で安定的な運営を実施した。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	①運営基盤として、提案事業者の経営、事業、組織規模等は十分か。 ②運営基盤として、提案事業者の財務状況は妥当か。	住友林業グループとして業績も上がっており、2023 年度は 1 兆 7,332 億円の売上である。今年度も増収を見込んでおり、安定した経営状況であるため問題無し。	S	履行確認の結果、安定した財政基盤があり、指定管理業務の受託に問題はない。	A	

年度評価：A